

令和6年能登半島地震 コープいしかわが取り組んだこと

コープいしかわは震災で被害に遭われた皆さまが日常の暮らしと笑顔を取り戻すその日まで、寄り添い続けていきます。組合員や全国の生協とともに社会の一員として取り組んだことを報告します。(4月9日記)



宅配事業

被災者・避難者コープ宅配料無料をお知らせ

被災した方、自宅外へ避難している方の暮らしを応援するため、右記の方を対象にコープ宅配料を無料としています。広くお知らせするため、3月末から能登エリアを中心に新聞折り込みを実施し、4月からFMでのラジオCMなどを開始しています。

コープ宅配料無料

珠洲市 輪島市 七尾市
能登町 穴水町 志賀町
新規加入の方も対象

県内に避難している方、避難者を受け入れている方
登録手続きが必要です

お問い合わせ・お申し込みは コールセンター
0120-759-853

組合員を探して仮設住宅訪問

入居の始まった仮設住宅への訪問活動を開始しました。連絡の取れない組合員を探して、安否確認と利用再開のご案内をしています。また1月に安否確認と利用再開の意向伺いで連絡した際に「当面宅配を利用できない」と回答された組合員へ向けて、3月に入り断水解消や仮設住宅の入居などの変化があるため再度ご連絡をしています。



▲ カタログを持って輪島市の仮設住宅を訪問

CO・OP共済お見舞い訪問活動再開

被害状況の確認やお見舞い金の手続きをするCO・OP共済契約者個別訪問活動が4月1日(月)より再開しました。奥能登での活動拠点の確保ができたことからコープ共済連や全国の生協からの応援職員が輪島市、珠洲市、能登町、能登島での訪問活動をします。 4月1日週のメンバー▶



全国の生協からの支援

2月13日(火)から始まった、能登エリア以外の配送センター14コースの配送を全国の生協職員に担っていただく支援が4月5日(金)をもって終了しました。県外から来たことを知った組合員からは感謝の気持ちが伝えられています。



支援いただいた生協(3月25日(月)~4月5日(金)) コープあいづ・コープあおり・コープおきなわ・コープぎふ・コープこうべ・コープさっぽろ・コープしが・コープみらい(東京)・とちぎコープ・トヨタ生協・パルシステム山梨・長野・パルシステム東京・ユーコープ・わかやま市民生協・生協くまもと・日本生協連

仮設入居者へコープの調味料セットを

仮設住宅に入居する方へ少しでも安心して生活を始められるように、日本生協連のご協力を得てコープの調味料セットを提供しています。



調味料セットに同封する組合員からのメッセージ▶

能登町災害ボランティアセンター運営支援

コープいしかわから職員1名と1週間交代で計5名の職員を派遣しています。被災者からのニーズとボランティアをマッチングしたり運営面を担っています。



ボランティアが入る前の現地調査の連絡をする人材開発部の佐原さんと湊センター鶴来さん▶

災害NGO 結へアレルギー対応食の提供

継続的に支援活動を行い、被災地の課題に向き合っている災害NGO結から「輪島市の保育所のための小麦アレルギー対応の食材を、コープいしかわから提供してほしい」といった依頼があり、「みんなの食卓ミートボール」などの冷蔵商品4種20点を提供しました。

白山市2次避難所で応援ボランティア

3月24日(日)、2次避難所となっている白山市松任総合運動公園体育館で、教え合い講師の安田詔子さんを講師として応援ボランティアによる「セルフケア体験でリフレッシュ!」を開催しました。参加者は身体の緊張をほぐし、不調を整えるためのセルフケアを教わってもらいリフレッシュしていました。

継続中

●野々市市の2次避難所へおにぎりを毎日お届け。おにぎりは米心石川様が製造・納品。●金沢市が給与するみなし仮設用生活用品を「くらしと生協」で調達。●粟津温泉の2次避難所へ朝昼夕食を、小松センターとコープこまつから毎日お届け。

食の安全情報シリーズ 第17回

食品安全コミュニケーション育成講座 私たち学んでいます



コープ北陸主催、消費者庁共催、石川県・石川県立大学後援のもと開催している食品安全コミュニケーション育成講座。参加しているコープいしかわの組合員理事がレポートします。

1 この食品は〇〇を使っているから危険らしいよ

えーっ!?こわーい友だちにも教えてあげよう!

2 この食品は危険なことはないって~

あ、そう...

3 「危険」な情報は広まるけど、「安全」だっていう情報は広まらないね

あっ!



今回の講義

情報の選択と伝達の方法 -リスクコミュニケーションの心得-
講師：東京大学名誉教授 食の信頼向上をめざす会 代表 唐木 英明氏

より私が伝えたいこと

私たちはたくさんの情報の中から、根拠のない危険情報や不安情報を排除し、科学的に正しい情報は信頼のおけるところから得なければいけない、ということが心に残りました。

レポートする人



コープいしかわ 組合員理事 加賀 千鶴子さん

安全なのに不安に思う人はなぜ多いのでしょうか?

それは不安を煽り誤解させて儲かるビジネスなど、偽情報がたくさんあるから。

恐怖 危険に出会ったときに起こる感情で、「逃げる」という行動につながる。恐怖感がないと逃げないため死に絶える。

不安 危険を逃れるための感情。対象がよく分からないときには不安になる。「正体が分からないものは危険」と判断して直ちに逃げ出す。

人は目に見えない物やよく分からない物は危険と判断し、本能的に回避します。

安全 聞き逃しても何の問題も起こらないから「安全」という情報には注意を払わない。

現代の「よく分からないもの」 添加物、残留農薬、遺伝子組み換え、放射能...

その結果何が起るのか? 危険情報は売れる!安全情報は売れない。世の中に流れる情報は危険情報ばかりになる!

でも食品添加物って危険なのよね?

安全か危険かは量で決まる

「食品添加物は怖い」という人もいますが、食品添加物などの化学物質には「いき値」が設定されています。「いき値」とは、人が一生の間毎日食べても健康に影響が無い量・安全のための値です。さらにそれより少ない量が基準値となり、食品に含まれる添加物や残留農薬は基準値よりさらに少ないのです。

●化学物質の用量作用関係

大 リスク 小

致死量

健康被害あり その程度は量に比例する

無毒性量 健康影響が起らない量

いき値 細胞に作用しない量

一日摂取許容量 ADI 一生の間毎日食べても健康に影響がない量 安全のための量

安全係数 1/100

基準値 行政措置のための値

添加物・残留農薬の量

安全な量

注意 違反

危険な量

少量 多量

化学物質の量